

1. 目次

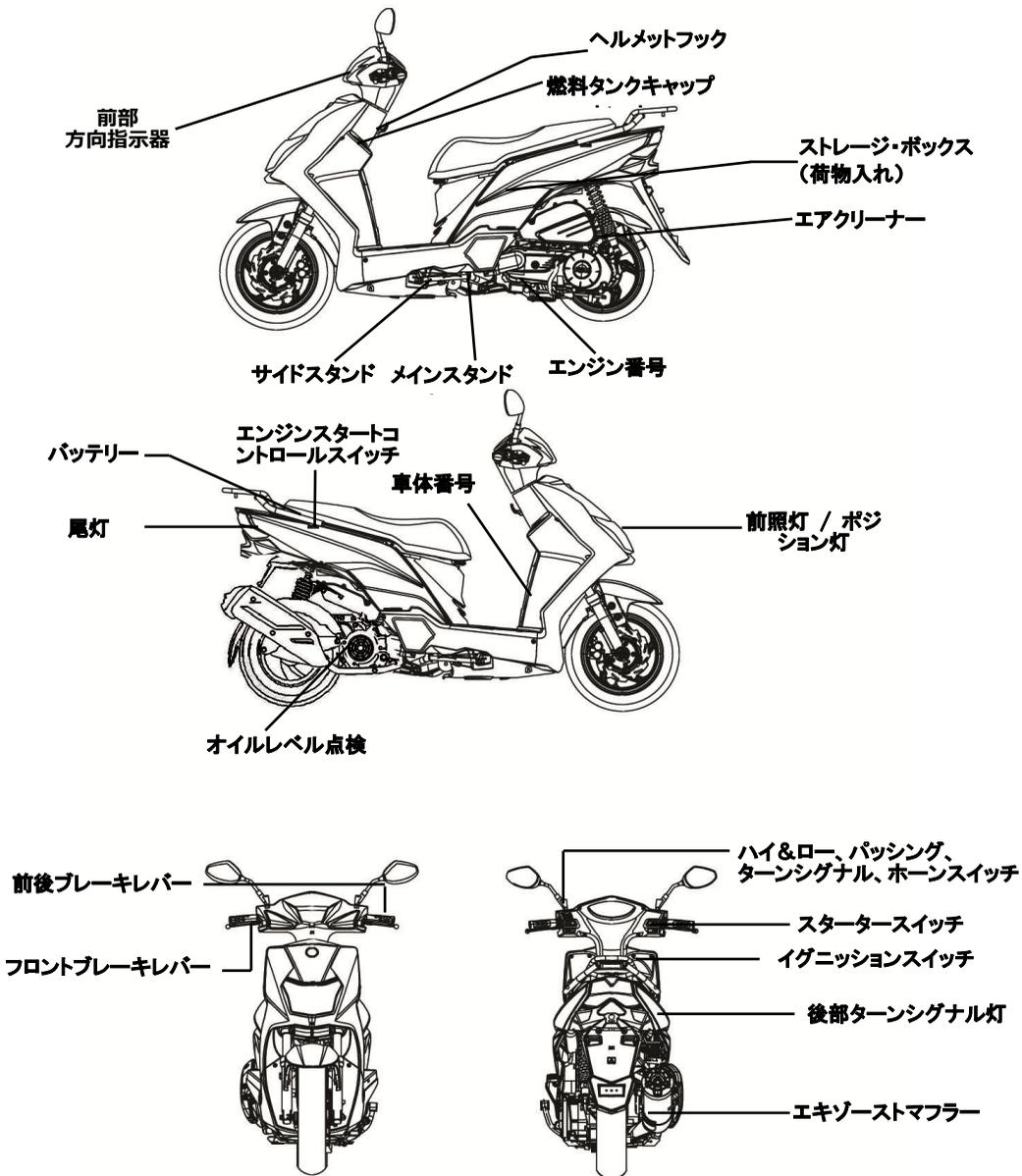
1. 目次	1
2. 操作各部の位置と名称	3
3. 乗車前に	4
4. 安全運転のために	4
5. 運転とは	5
6. 純正部品をお使いください	5
7. 各 부품の使い方	6
ゲージ類	6
イグニッションスイッチの操作方法	7
ステアリングハンドルロックスイッチの操作方法	7
燃料キャップスイッチの操作	7
ボタン類の操作について	8
ストレージボックス(荷室)	9
ヘルメットホルダー	10
燃料タンクキャップ	10
ブレーキ	10
8. エンジン始動にあたっての重要なポイント	11
9. 発進させるには	12
スロットルの操作	12
駐車方法	12
10. 乗車前点検とメンテナンス	13
乗車前点検事項	13
エンジンオイルの点検と交換	13
燃料の点検	14
トランスミッションオイルの点検と交換	14
ブレーキの遊びと調整	15
ディスクブレーキの点検(モデルに依り)	16
スロットルの遊びの点検と調整	17
バッテリーの点検とメンテナンス	17
タイヤの点検	18
ステアリングハンドル、およびフロントショックアブソーバーの点検と調整	18
ヒューズの点検と交換	19
ターンシグナルライトやホーンの点検	19
前照灯及び尾灯の点検	19
ブレーキランプの点検	19

1. 目次

燃料漏れの点検	20
ボディ各部の可動部の点検と潤滑	20
スパークプラグの点検	20
エアクリーナーの点検	20
11. 異常やトラブルに遭遇した時に	21
エンジンが始動できないときの診断	21
12. 燃料について	21
13. トランスミッションオイル	21
14. 運転するにあたって	22
15. 定期点検スケジュール	23
16. 諸元	24

2.操作各部の位置と名称

モデル名: オービット III 50 & 125I(XE05W1-EU/XE12W1-EU)



3. 乗車前に

このマニュアルは、記載されているモーターサイクルの正しい使い方、ならびに安全な乗り方や、簡単な点検方法などについて解説しているものです。より快適で、安全なライディングをお楽しみいただくためにも、このマニュアルを十分注意してご熟読ください。

安心してお乗りいただくためにも、ぜひご担当のSYM販売店に、オペレーティングマニュアル、特に以下の部分について習熟するよう、求めた方がいいでしょう：

- 正しいモーターサイクルの使用方法
- 納車前点検とメンテナンス

お客様のモーターサイクルの能力を最大限に保つためには、定期的な点検やメンテナンスは欠かせません。

新車を納車させていただいたのち最初の 300 km を走行されましたら、ぜひお買い上げの販売店にご愛車をお持ちになり、点検を受けてください。また、その後は 1,000 km 走行ごとに、同様に点検を受けるようにしてください。

- もしお客様のモーターサイクルの諸元や構造に変更が加えられており、このオーナーズマニュアルで示している写真や図表と異なる場合は、実際の車両の諸元や構造を優先していただき、オーナーズマニュアルはご参考程度にご使用ください。

4. 安全運転のために

安全な運転のためには、不必要な力を抜き、ライディングにふさわしい服装をまとい、交通規則に従い、不必要に急ぐことなく、不断の注意を払いつつリラックスしていることが重要です。

一般的に、多くの方は新車をご購入された直後は大変注意深く運転されるのですが、車両に慣れてくると無意識のうちにご不注意になりがちであり、これが事故の原因となることも少なくありません。

⚠ 覚えておきましょう：

- モーターサイクルに乗車するときにはヘルメットを着用し、あごひもをしっかりと締めましょう。
- 袖口が開いていたり、緩んでいるような服を着用していると、走行風で袖がモーターサイクルのハンドルバーにかかってしまうなど、安全運転の阻害要因になることがあります。
- したがって、袖がタイトな上着を着用した方がよいでしょう。
- ハンドルは必ず運転中は両手で支えること。決して片手で運転してはいけません。
- 制限速度を守りましょう。
- ライディングに適した、かかとの低い靴を履きましょう。
- 示されているスケジュールに従い適切な定期点検とメンテナンスを行いましょう。

⚠ 注意!!

- 二人乗りの時に同乗者がマフラーの熱でやけどすることが無いように、同乗者が確実にその足を適切にペダル、ステップ又はボードに載せるよう気を配ること。
- 走行後はマフラー及びエキゾーストパイプは非常に高温になります。点検やメンテナンスを行う際には、やけどに十分注意すること。
- 走行後はマフラー及びエキゾーストパイプは非常に高温になります。第3者がこれに触れてやけどなどを負うことが無いよう、十分気を付けて駐車すること。

⚠ 注意:

改造されたモーターサイクルはその構造や性能に影響を与え、結果としてエンジンの能力の減退や過大な排気音などを引き起こしがちです。これはまたモーターサイクルの寿命を縮めることにもつながります。また、改造は時として違法であり、オリジナルのデザインや諸元にも合致しないこととなります。改造されたモーターサイクルは保証の対象外ともなりますので、ご購入された愛車には一切の改造を加えないようにしてください。

5. 運転とは

- モーターサイクルの操作にかかわる身体の一部、例えば腕、手のひら、腰、つま先などは常にリラックスさせ、必要に応じて急な操作が要求されるようなときにそれに適えられるようにしておきましょう。
- ライダーの姿勢は走行上の安全にも深く関与しています。常にご自身の重心をシートの中央に置くように意識しましょう。もし重心がシートの後方に偏ると、フロントホイールへの荷重が減り、ステアリング・ハンドルの振れにつながりかねません。不安定なハンドルでのライディングは危険です。
- カーブを曲がる際には、ライダーが重心を内側に傾けた方がはるかに容易に曲がることができます。他方、体やモーターサイクルが内向しない場合、ライダーは不安定に感じることでしょう。
- モーターサイクルは凹凸が激しい、不均一な、あるいは未舗装の道路では操作が困難になります。従って走る前に路面コンディションに十分に注意を払い、場合によっては速度を適切に落とし、ハンドルを操作するために腕の力を抜いて肩を使いましょう。
- 不必要な荷物などをフロント側のペダルに載せたり、荷重させることは避けるようにしましょう。ハンドル操作や不安定なハンドリングに影響する恐れがあります。

注意:

ライダーが感じ取るハンドリングは、斜体にかかっている重量によってわずかに異なるものです。過剰な積載による重量増加は、ハンドルの振れの原因になり、安全なライディングを妨げます。従い、規定重量を超えた積載は行ってはいけません。

注意:

- 敷布のような可燃物をボディカバーとエンジンの間に挟んだりしないこと。引火の恐れがあり、車両に被害が発生する可能性があります。
- 荷物を積載するためと示された場所以外には荷物を積載しないこと。

推奨事項:

お使いのモーターサイクルの寿命を長く、そのサービスライフを延長するためには、最初の1カ月または1,000 kmを慣らし期間としてエンジンや各部部品を丁寧に仕上げてください。

6. 純正補修部品の使用について

お使いのモーターサイクルの能力を最大限に発揮させるためにも、個々の部品の品質、素材、切削の精度などは、必ず設計の基準に一致していることが重要です。“SYM G S P”(SYM 純正補修部品/用品)はお使いのモーターサイクルと同じ、高品質の素材から作られています。SYM では、洗練されたエンジニアリング、卓越した品質管理のもと設計された高品質の基準に合致しない商品は、一切市場には出すことがありません。したがって、補修部品を使用、あるいは部品の交換を行う際には、必ず SYM 純正補修部品を、SYM 正規取扱販売店から購入し、お使いください。もし市場で流通しているような安価な、あるいは偽物の類似部品をお使いの場合、品質、耐久性ともに何の保証も受けることはできません。同時に、予期しないトラブルの発生や、モーターサイクルの性能の低下を招く恐れがあります

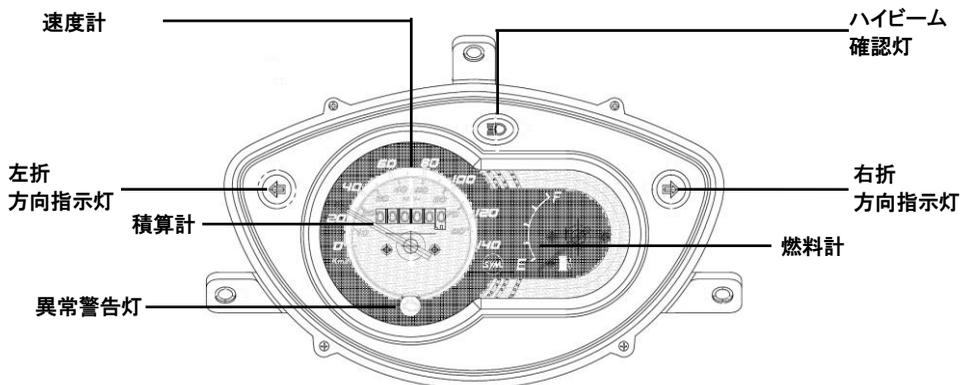
- お使いのモーターサイクルの純潔性を守り、末永くお使いいただくためにも、必ず SYM 純正補修部品をお使いください。

7. 各製品の使い方

(本稿はSYM 4 サイクル空冷エンジン 搭載のスクーターの基本的な操作方法であり、モデルによって多少異なる場合があります。詳細についてはマニュアル末尾をご参照ください。)

§ ゲージ類 §

スピードメーターパネルのデザインはモデルによって異なりますが、配置はおおむね一緒です。



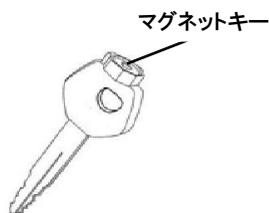
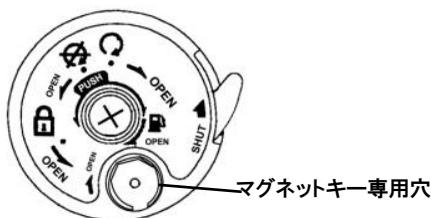
注意:

プラスチック素材の部品(インストゥルメントパネルやヘッドライトなど)を、有機溶剤等で拭かないこと。深刻なダメージを与える恐れがあります。

- **速度計(スピードメーター):**
現時点での運転速度を示しています。
- **積算計(オドメーター):**
新車からの総走行距離を積算して表示します。
- **ハイビーム確認灯(インジケーター):**
ヘッドライトが上向きの際に点灯。
- **方向指示灯 (右/左):**
左または右の方向指示灯が、方向指示器のスイッチを入れたとき、それぞれの方向に合わせて点灯します。
- **燃料計:**
メーター内の針の位置が、燃料の残量を示します。但し、メインキーが OFF の場合、針の位置は E を示します。
- **異常警告灯**
ECU または ECS 内部に何らかの異常がある場合、これが点灯します。

§ イグニッションスイッチの操作方法 §

イグニッションスイッチ



“ON”：

- エンジンの始動が可能なポジションです。
- イグニッションキーを抜くことはできません。



“OFF”：

- エンジンは停止し、この位置では再始動はできません。
- イグニッションキーの引き抜きが可能です。

§ ステアリングハンドルロックスイッチの操作方法 §



“ハンドルロック”

- ステアリングハンドルを左に切り、イグニッションキーを入れます。キーを押しながら右回しに回し、軽く左にわずかに戻したところでロックのポジションになります。
- ステアリングハンドルは、この位置で固定されます。
- イグニッションキーはこの位置からは抜き差しが可能です。
- キーを解除するには、キーをロックのポジションから、OFFのポジションに戻すだけで構いません。

⚠ 注意：

シートをロックしてしまう前に、確実にキーをご自身とともに車両から引き離すこと。

§ 燃料キャップスイッチの操作 §



“燃料タンクキャップ オープン” ポジション：

- イグニッションキーを挿入し、右に回すことで、キャップが開きます。
- 燃料タンクキャップは、押し込むことで自動的にロックがかかります。



§ イグニッションの操作 §

“OPEN” ポジション：

- マグネットキーを所定の位置に押し当てることで、キー穴の蓋が解除され、イグニッションキーが挿入できるようになります。

“SHUT” ポジション：

- “shut” ボタン横の黒いボタンを押すことで、カギ穴の蓋が自動的に閉じます。

マグネット・キー：

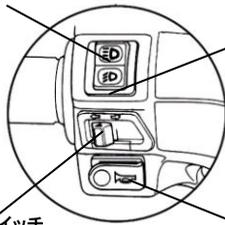
- マグネットキーをマグネットキーの穴に入れることで、イグニッションキーの蓋が解除され、イグニッションを ON にすることが出来るようになります。
- イグニッションキーの蓋を閉めるには、蓋の横のプッシュロッドを押し入れます。

⚠ 注意:

- モーターサイクルを走らせている最中にイグニッションキーを操作しないこと。イグニッションキーを OFF または LOCK 位置に回すことは、すべての電装系の回路を遮断することになり、重大な事故を引き起こす原因になりかねません。したがって、イグニッションスイッチは車両が完全に静止してから初めて操作してください。
- 車両から離れる時には、必ずイグニッションキーを取り外してください。また、車両をロックして車両から離れるときは、必ずキーをご自身とともに持ち歩くことをお忘れなく。
- もしエンジンが停止した後もしばらくイグニッションキーを ON のポジションのまま放置すると、バッテリーが損耗し、エンジンの再始動が困難になる恐れがあります。
- シートを施錠する前に、必ずキーをご自身とともに車体から取り外すことをお忘れなく。

§ ボタン類の操作について §

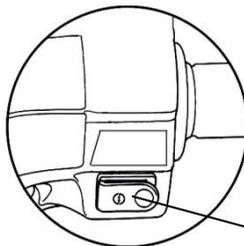
ハイ/ロービーム
スイッチ



パッシングスイッチ

ターニングナルスイッチ

ホーンスイッチ



セルフスターターボタン

• セルフスターターボタン



これはエンジンを始動させるためのスイッチです。

メインスイッチが ON の時、フロント若しくはリアブレーキを保持しながらこのスイッチを押すことで、エンジンを始動させることができます。

⚠ 注意:

- エンジンが始動したら速やかにこのボタンから手を放してください。また、エンジン始動中にこのボタンに触れないようにしてください。エンジンにダメージを与える可能性があります。
- エンジン始動には安全装置が組み込まれています。エンジン始動には必ずフロント、ないしはリアブレーキレバー(ペダル)が保持されていることが必要です。

• ハイ/ロービームスイッチ

ヘッドライトの上向き/下向き(ハイ/ロービーム)を切り替えるスイッチです。いずれかのボタンを押し込むことで、切り替えが可能です。



これはハイビーム(上向き)になります。



これはロービーム(下向き)になります。市街地走行ではこちらをご使用ください。

・ パッシングスイッチ

イグニッションスイッチを ON の位置にして、このボタンを押してください。シートのロックが解除され、開けることが可能になります。

このボタンは解除され次第、元の位置に自動的に戻ります。

シートロックは、シートを押し下げることによって自動的になされます。

シートがロックされた後、必ず確実に施錠されていることを、シート周辺を持ち上げるなどして確認しましょう。

⚠ 注意:

- ・ シートが施錠されたのち、必ずイグニッションキーを取り外すこと。
- ・ シートを開けたのち、イグニッションキーをストレージボックス(荷室)に入れないこと。誤ってシートを押し下げると、シートがロックされ、キーが取り出せなくなる恐れがあります。

ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが ON にある間、このボタンを押すとホーンが鳴ります。

・ ターンシグナルスイッチ

運転中に右折又は左折するとき、あるいはレーンチェンジを行う際に、ターンシグナルを使用します。

イグニッションスイッチを ON にし、ターンシグナルスイッチを任意の方向にスライドさせることにより、ターンシグナルが点滅します。

解除には、ターンシグナルスイッチをもとの位置に戻します。



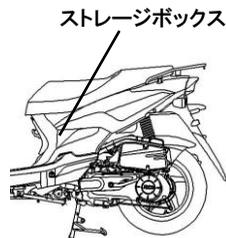
右側のターンシグナルライトが点滅する、ということを示すにはライダーは右折しようという意志を示しています。



左側のターンシグナルライトが点滅する、ということを示すにはライダーは左折しようという意志を示しています。

§ ストレージボックス(荷室) §

- ・ ストレージボックスはシート下に用意されています。
- ・ ここの最大許容重量は 5kg です。
- ・ 貴重品をここにしまわないこと。
- ・ シートを押し下げたときに、確実にシートがロックされていることを確認すること。
- ・ 貴重品を必ず洗車前に出し、万が一にも濡れるようなことが無いよう配慮すること。
- ・ 温度に敏感なもの、高温に弱いものをここに収納しないこと、エンジンの熱などで高温になる恐れがあります。



§ ヘルメットホルダー §

- モーターサイクルを停止させヘルメットのおごひもをフックに掛けます。

⚠ 注意:

- 運転中にこのフックにヘルメットをかけたままにしておかないこと。モーターサイクル本体に傷をつける可能性があり、さらにヘルメットの機能にも影響する恐れがあるため。



§ 燃料タンクキャップ §

1. イグニッションキーを挿入し右に回してください。燃料タンクキャップは自動的に開きます。
2. 給油の際には、燃料の上限を超えて注油しないこと。
3. キャップに刻まれた“△”マークを、燃料タンク側の“△”マークに合わせ、キャップを時計回りに押し下げてロックします。

⚠ 注意:

- 給油に際しては、安全のため、メインスタンドで車体を立て、エンジンを停止し、火気厳禁で行うこと。
- 給油の際に、燃料の上限を超えて注油しないこと。燃料が溢れ車体の塗装などにダメージを与える可能性があります。最悪の場合、漏れた燃料に引火して火災を発生する恐れもあります。
- 燃料キャップが確実に締め付けられていることを確認すること。

§ ブレーキ §

フロントブレーキの作動には、右側のブレーキレバーを操作します。

CBSモデルでは、左のブレーキレバーを操作することで、前後のブレーキが同時に作動します。(125ccのみ)

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。
- ブレーキを作動させるときには、前後のブレーキをバランスよく使用しましょう
- 長い時間継続的にブレーキを使用することは避けましょう。ブレーキをオーバーヒートさせ、制動力の低下を招く恐れがあります。
- 雨天時や、滑りやすい道路では、早めの制動と減速が効果的です。滑ったり、転倒したりすることを避けるためにも、急制動は避けましょう。
- 前後どちらかだけのブレーキを用いることは、モーターサイクルがどちらかにその重心を偏らせることになるため、転倒の危険が高まります。

《エンジンブレーキ》

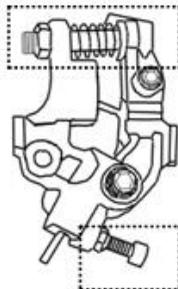
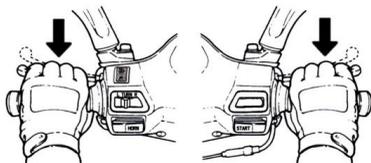
走行中にスロットルをもとの位置に戻すことで、エンジンブレーキを利かせることができます。

とはいえ、長い坂や急激な坂を走るときには、同時にフロントやリアブレーキを適宜使用することか必要です。

CBS モデル(125ccのみ)

前後輪を同時に。

前輪だけを制動。



⚠ 注意:

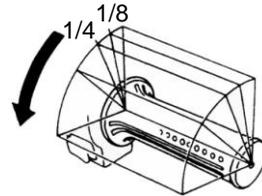
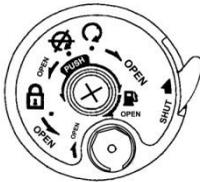
- これらのボルトを調整しないこと。ブレーキの異常などを感じた場合は、必ずSYM正規販売店に相談し、プロフェッショナルサービスを受けてください。

8. エンジン始動にあたっての重要なポイント

⚠ 注意:

- エンジン始動前に、十分な又は適量のガソリンやオイルが車両に用意されているかを確認してください。
- エンジン始動にはメインスタンドが確実に使用されていること、また、モーターサイクルが突然動き出すことが無いよう、リアブレーキが確実に保持されていることを確認してください。

1. イグニッションキーを”ON”の位置に回します。
2. リアブレーキを保持します。
3. アクセルを開けることなく、スターターボタンを押します。



【お客様の安全のためにも、必ずリアブレーキを保持した状態でエンジンを始動してください！】

⚠ 注意:

- キック付き車両の場合、もし 3-5 回ほどキックしてもエンジンが始動しなければ、スロットルグリップの開度を 1/8~1/4 回転の位置まで開き、再びキックしてください。簡単にエンジンがかかるはずですが。
- スターターモーターへの過剰な負荷を避けるため、スターターボタンを 15 秒以上連続してまわすことが無いように注意してください。
- 15 回以上スターターボタンを使用してもエンジンがかからない場合、再始動前にいったんメインキーをオフにし、10 秒以上間をあけてください。
- 長期間モーターサイクルをご利用にならなかった後や、完全に燃料がなくなった後での再始動は、しばしばエンジンがかからなくなりがちです。こうした場合には、キックスターターを何回掛ける、あるいはスターターボタンを何度も押しして再挑戦することが必要になります。この場合、スロットルの開度はゼロに保ったままであることが重要です。
- 冷間時には、エンジンの暖気に数分間必要なことがあります。
- 排気ガスには有害物質(CO)が含まれています。このため、換気の良いところで始動するよう心掛けてください。

【キックスターターでエンジンを始動する場合】(50 ccモデルのみ搭載)

- 最初の 3 ステップののち、キックスターターを力強く一気に足で踏み下ろしてください。この時、スロットル開度はゼロに保っておいてください。
- もしエンジンが冷え切っていて再始動が困難な場合、スロットル開度を 1/8~1/4 に保つことで、再始動が容易になることがあります。
- エンジンが始動したら、キックスターターは元の位置に戻してください。

⚠ 注意:

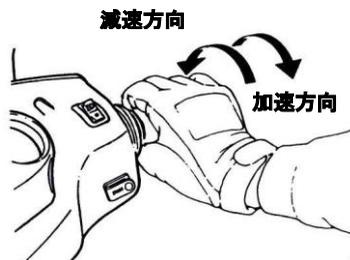
- キックスターターでエンジンを始動する場合には、メインスタンドを確実に使用してください。
- キックスターターが用意されている車両は、その機能が損なわれないよう、時々キックスターターを使っておくことがお勧めです。

9. 発進させるには:

- ・ ターンシグナルライトを点滅させ、後ろからほかの車両が近づいてきていないことを確認したのちに、走り出すようにしましょう。

§ スロットルの操作 §

- 加速:** 速度を上昇させます。上り坂などではスロットルグリップを緩やかに開け、エンジンが十分な出力を発揮できるようにしましょう。
- 減速:** 速度を減少させます



§ 駐車方法 §

- ・ 駐車場に接近した時:
 1. 早めにターンシグナルライトを点滅させ、備えます。ご自身の前方、後方および左右両方から接近している車両などがいないか十分に注意し、駐車場方向に接近します。
 2. スロットルグリップを戻し、ブレーキを徐々にかけていきます(ブレーキ灯が点灯し、後方から接近する車両などに警告を發します)。
- ・ 完全に停止する時:
 3. ターンシグナルスイッチをもとの位置に戻します。イグニッションスイッチを OFF の位置に回し、エンジンを完全に停止させます。
 4. エンジン停止を確認したのちに、モーターサイクルの左側から降車します。駐車位置を確認し、平面で、かつ交通を妨害しない場所であることを確認したうえで、モーターサイクルのメインスタンドを立てます。
 5. ステアリングハンドルを左手で支え、右手でシート前部、あるいはシート下左側のパーキングハンドルを支えます。
 6. 右足でメインパーキングスタンドを押し下げ、路面に確実にスタンドを立てます。
忘れないこと: ステアリングハンドルロックし、イグニッションキーをモーターサイクルから抜き去り、施錠すること。盗難に備えましょう。

⚠ 注意:

- ・ モーターサイクルは、交通の障害にならないような、安全な場所に確実に駐車させましょう。

10. 乗車前点検とメンテナンスについて

(ここで使用される部品などの名称、位置は図表でご確認ください)

§ 乗車前点検事項 §

確認すべき箇所		確認すべき内容
エンジンオイル		エンジンオイルは規定量を満たしていますか？
燃料(ガソリン)		燃料は十分入っていますか？90オクタン以上のガソリンですか？
ブレーキ	フロント(前)	ブレーキの状態は？ (ブレーキレバーの遊びは10～20mmですか？)
	リア(後)	ブレーキの状態は？ (ブレーキレバーの遊びは10～20mmですか？)
タイヤ	フロント(前)	タイヤの空気圧は正常ですか？ (空気圧規定値：1.75kg/cm ²)
	リア(後)	タイヤの空気圧は正常ですか？ (空気圧規定値：1名乗車時2.0 kg/cm ² 、2名乗車時 2.25 kg/cm ²)
ステアリング・ハンドル		ハンドルの振動に異常があったり、旋回が困難だったりしませんか？
スピードメーター、灯火類、後写鏡		正常に動作していますか？ 灯火類は点灯しますか？後方から明確に見ることはできますか？
主な装備品のゆるみなど		ボルトやナット類は緩んでいませんか？
異常の再確認		過去発生したような異常は確認されませんか？



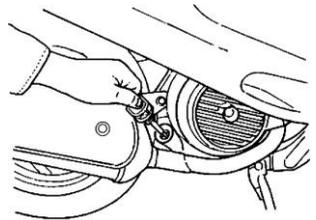
注意：

- もし走行前点検で異常が発見された場合、ご愛車を使用する前に問題点は解決しておきましょう。モーターサイクルをSYM正規販売網店にお持ちになり、点検、修理されることを強くお勧めします。

§ エンジンオイルの点検と交換 §

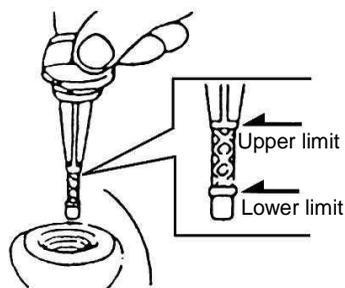
・ 点検：

- 水平な地面の上に、メインスタンドで車両を保持します。エンジン停止後 3～5 分後、オイル点検のディップスティックを取り外します。ディップスティックについたオイルを拭い、ガイドチューブに再度挿入します。但し、ねじ込まないこと。
 - ディップスティックを抜き、オイル量が示された“Upper”と lower のマークで示された間にあることを確認してください。
 - もしオイルレベルがローレベル以下の場合、オイルレベルが下限に達しないようにし、場合によっては注ぎ足しましょう。
- 注ぎ足しにあたっては、アッパーリミットまで同銘柄同グレードを使用して注入します。(念のため、オイルレベルの再確認を行うこと。また、シリンダー、クランクケース、等からオイル漏れがないか丁寧に確認すること。



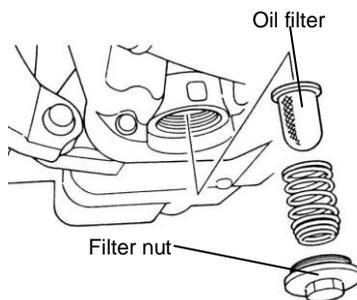
オイル交換:

- エンジンオイルは最初の 300 km 走行後に交換します。その後は、1000 km 走行ごとに交換してください。
- エンジンが最大の能力を発揮できるよう、エンジンオイルの残量は 500 km ごとに確認してください。不足があった場合、オイルレベルの上限まで注ぎ足してください。
- エンジンオイルは SL/CFSAE 10W-30 グレードもしくはそれ以上が推奨。推奨品はモチュール 3100Gold 4T 10W-40 です。なお、ほかのオイルを使用してエンジンにダメージが発生しても、保証ではカバーいたしかねます。
- エンジンオイル量:
125 cc:0.95 L (交換時は 0.70 L)。
50 cc:0.80L (交換時は 0.65L)。
- 氷点下以下でのご使用に際しては、エンジンオイルは SAE 5W-40 をご使用ください。



【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルターエレメントの固定ナットを外し、エレメントを抜き出します。エレメントからゴミや異物などを、ガソリン、若しくはエアブローによって取り除いてください。



⚠ 注意!

- オイル量の確認は、必ず水平な路面にメインスタンドを使って車体を立てて、エンジンを停止させた直後に行ってください。
- エンジン及びマフラー(エキゾーストパイプ)はエンジン停止直後には極めて高温になっています。エンジンオイルの点検や交換に際しては、やけどを負うことが無いよう十分に注意して実行してください。
- オイル注入後、再びオイル量が規定の下限値に近づくような場合、エンジンからの漏れがないかよく点検し、再び注ぎ足してください。
- Keep away from エンジンオイル補給に際しては、火花や周囲の可燃物に十分注意してください。

§ 燃料の点検 §

- メインスイッチを ON の位置に回し、燃料計の針が十分な量を示す位置まで上がるかを確認してください。
- このモーターサイクルのエンジンは、無鉛、90 オクタン以上のガソリンを使用するように設計されています。
- メインスタンドで確実に車体を立て、エンジンを停止し、周囲の可燃物に十分注意しながら燃料を補給してください。
- 燃料補給に際しては、上限値を守り、入れすぎないように注意。
- 給油後、燃料タンクのキャップは外れることが無いようきちんと締め付けること。

§ トランスミッションオイルの点検と交換 §

点検:

- メインスタンドを用いて水平面に車両を立て、3~5 分間置いてください。トランスミッション注入ボルトを外し、ドレンボルト下に計量カップを用意して、ドレンボルトを取り外します。計量カップに流れ出たオイルを確認し、オイル量に変化がなかったかどうかを調べます(規定量は 125i ccモデルは分解整備時 180~185cc、交換時は 165~170 ccです)。50 ccモデルは分解整備時 110~115 cc、交換時 100~105cc

オイル交換:

- エンジンを停止し、水平面上にメインスタンドを使ってバイクを立てます。ドレンボルトとトランスミッション注入ボルトを取り外し、トランスミッションオイルを流出させます。
- ドレンボルトを挿入し規定トルクで締結します。新品のトランスミッションオイルを規定量を注入し、注入ボルトを取り付け、規定トルクで締め付けます。ボルトが十分にきちんと締め付けられていること、オイル漏れなどが無いことを確認します。
- 推奨オイル: MOTUL Gear Competition 75W140 API GL-4/GL-5

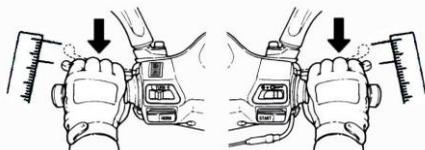
§ ブレーキの遊びと調整 §

点検：（ブレーキレバーの遊びは、必ずエンジン停止状態で行うこと）

・フロント及びリアホイールにおける、ブレーキレバー及びペダルの遊びについて

- ◆フロントホイールのハンドブレーキレバーについては、その遊び（ブレーキが全く効かない状態から効きはじめるまでのレバーの移動距離）は 10～20mm となることが推奨されます。レバーを力強く握った感覚がスポンジを握るような感じだと、ブレーキに異常がある恐れがあります。

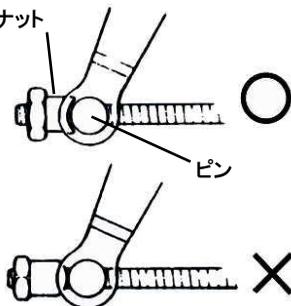
10～20 mm



調整：（ドラムブレーキ）

- ・ブレーキ調整ナットの湾曲面は、必ずピンに添わせるようにしておくこと（下図参照）

調整ナット

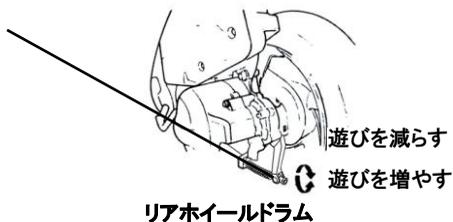


⚠ 注意：

遊びが 10～20 mm の時、前後それぞれのホイールに刻まれたブレーキインジケータの状態を確認すること。ブレーキアーム上の矢印がブレーキディスクの△と一致した場合、ブレーキライニング（パッド）が著しく消耗しており、即時交換の必要があります。

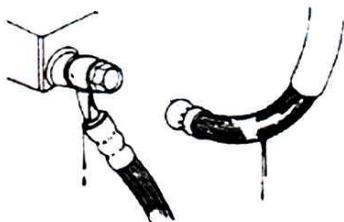
- ・調整ナットを回し、レバーの遊びを調整します。
- ・調整後、両手でしっかりハンドブレーキレバーを握り込み、十分なフィーリングを得られるようにします。
- ・遊びを定規で測定します。

調整ナット



§ ディスクブレーキの点検 §

(ブレーキホースからの漏れ、ダメージあるいは緩み)



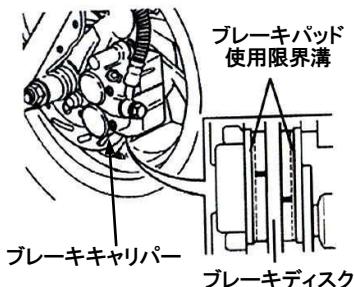
• ブレーキラインを丁寧に目視点検し、ブレーキフルードの漏れやホースへのダメージ、接続部分の緩みなどを確認する。緩みについては適切なレンチ等で修正する。また、運転中に不自然な振動がハンドルに集中したり、ほかの部品が接触するなどしてブレーキラインに影響することが無いよう、注意深く確認する。異常が確認された場合は、SYM 正規販売店に車両を持ち込み、修理等の作業を依頼してください。

⚠ 危険:

- ご愛車を乾いた路面をゆっくりと走らせ、フロントブレーキとリアブレーキをそれぞれ、機能に異常がないかに注意しながら確認してください。何よりも大事なものは、モーターサイクルが理想的なコンディションに仕上げられ、安全にお楽しみいただけることです。

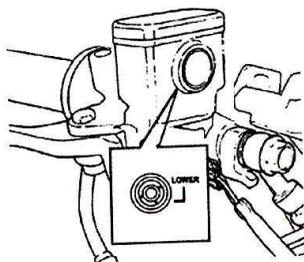
(フロントブレーキラインの点検)

- ブレーキキャリパーの後ろ側からブレーキの点検を行います。ブレーキパッドの使用限界がブレーキディスクに到達する前に、ブレーキパッドを新品のライニングで制作された新品のパッドに交換してください。



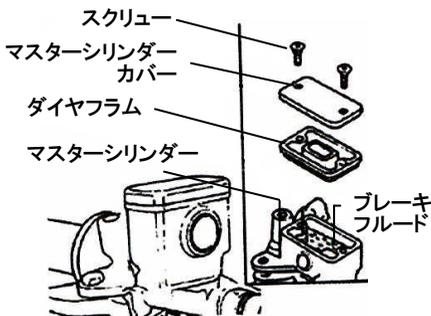
(リザーバータンク内のブレーキフルードの残量確認)

- モーターサイクルを水平面に駐車させ、ブレーキフルードレベルが Lower 面を下回っていないかを点検します。推奨フルードは MOTUL Factory Line RBF600 (DOT 4)です。



(フロントブレーキフルードの補充)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを外す。
2. リザーバー周りの汚れや異物などを丁寧に取り除く。リザーバー内に異物等を入れることが無いよう十分に注意して作業する。
4. ダイヤフラムプレート及びダイヤフラムを取り除く
5. ブレーキフルードを上限まで注入する
6. ダイヤフラムプレート及びダイヤフラムを取り付け。続いてマスターシリンダーカバーを取り付け。
7. ダイヤフラムの向きに十分注意し、また異物等がマスターシリンダー内にはいらぬ用留意すること。マスターシリンダーカバーを確実に締結すること。

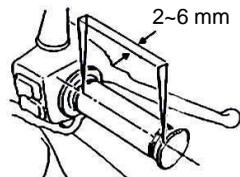


⚠ 注意:

- 化学反応等による異常を避けるため、ブレーキフルードは推奨品以外は使わないこと。
- ブレーキフルードは、ペイント面やプラスチック面にこぼして浸食しないよう、上限を超えて入れない。

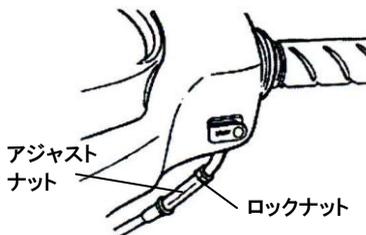
§ スロットルの遊びの点検と調整 §

- スロットルグリップの正しい遊びは回転方向に 2~6mm です。
- ロックナットを先に緩め、アジャストナットを使って遊びを調整します。終了後、ロックナットを用いて確実に提携してください。



確認すべきこと:

- 全閉から全開までスロットルグリップが確実にスムーズに動くことを確認する。
- ハンドルバーを左右目いっぱいまで繰り返して動かし、今回の調整や点検で異常がないことを確認する。
- アクセルケーブルがほかの配線類と干渉し、スムーズな動作ができなくなることを確認する。

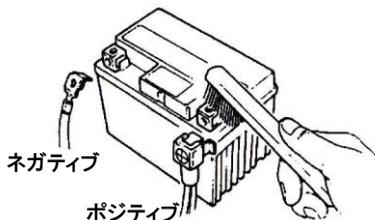


§ バッテリーの点検及びメンテナンス §

- このモーターサイクルは、メンテナンスフリータイプのバッテリーを搭載しています。したがって、定期点検や電解液の追加は不要です。万が一異常を発見した場合は、SYM 正規販売店にご相談ください。

(バッテリーターミナルの洗浄)

- バッテリーターミナルを取り外し、錆や汚れなどを点検、清掃します。
- バッテリーの取り外し順序は以下の通りです：
イグニッションキーを OFF にし、ネガティブケーブルスクリュー（マイナス側）を先に取り外します。ネガティブケーブルを取り外し、続いてポジティブ（プラス側）スクリューを外してケーブルを取り外します。



⚠ 注意:

- バッテリーポストが腐食していたり、白い粉が発生していた場合は、温かい水で洗浄してください。
- 明確な腐食がターミナルに発生していた場合、ケーブルを取り外し、スチールブラシやサンドペーパーなどで腐食部分を丁寧に取り外してください。
- 洗浄後、バッテリーケーブルを取り付けます。その際、薄くターミナルにグリスを塗ることを忘れずに。
- バッテリーを取り外し時の手順の逆に取り付けます。

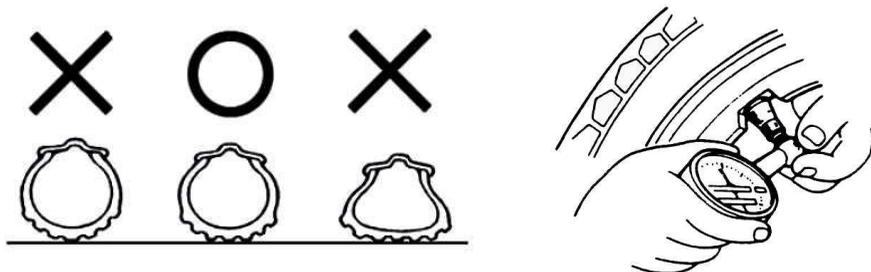
- このモーターサイクルはメンテナンスフリータイプのバッテリーを採用しています。従い、電解液の注入や定期的な点検は不要です。もし異常に気付いた場合は、速やかに SYM 正規販売店にご相談ください。

⚠ 注意:

- 本品は密閉式のバッテリーです。キャップを開けてはいけません。
- 長期間モーターサイクルを使用しない場合、バッテリーは放電が進み、使えなくなる恐れがあります。そうならないよう、バッテリーを車体から取り外し、満充電ののち、通期の良い冷暗所に保存しましょう。もしバッテリーを車両本体内に設置したままにする場合は、バッテリーのネガティブケーブルを取り外しておきましょう。
- バッテリーの交換が必要な場合、同様の密閉式バッテリー（メンテナンスフリー）に交換をしてください。

§ タイヤの点検 §

- タイヤの点検や空気を入れる場合は必ずエンジンを止めて行ってください。
- タイヤの接地面が通常の状態ではないと認められる場合、エアゲージ(空気圧計)で確認し、規定値までエアを入れてください。
- タイヤの空気圧は、冷間時に、エアゲージ空気圧計を用いて計測してください。



標準タイヤの空気圧は踏元を確認のこと

異物
(釘や小石など)

ひび割れや
痛みなど



- タイヤの状態を、傷や異常がないか、前面からまた側面から目視で点検します。
- トレッド面(接地面)に釘や小石などの異物が噛みこまれていないかを目視点検します。
- トレッド・ウェア・インジケーター、摩耗限度表示を確認し、タイヤの溝の深さが限界値を下回っていないかを確認します。
- 摩耗限界値に達しているタイヤは速やかに新品に交換しましょう。

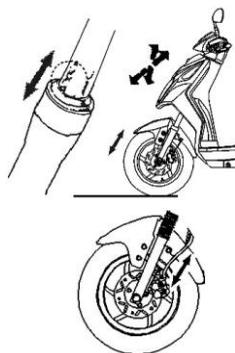


注意:

- 異常なタイヤ空気圧、異常損耗、ひび割れがタイヤのパンクや、ハンドリングへの異常の最も大きな要因を占めています。

§ ステアリングハンドル、およびフロントショックアブソーバーの点検よ調整 §

- この点検はエンジン停止状態で、イグニッションキーを取り外した状態で行うこと
- フロントショックアブソーバーにダメージがないか目視点検します。
- ステアリングを上下に動かし、伸縮時にフロントショックアブソーバーから異音が発生していないかを確認します。
- フロントショックアブソーバーの取付ボルトの締結トルクを確認します。
- ステアリングハンドルバーを上下、左右、前後方向に激しく動かし、取り付けのゆるみや、動きの渋さ、バランスの崩れなどが点検します。
- ステアリングハンドルがブレーキホースによって過度に引っ張られることが無い点検します。
- もし異常などが発見された場合、SYM 正規取扱販売店に車両をお持ち込みになり、点検・調整を依頼してください。

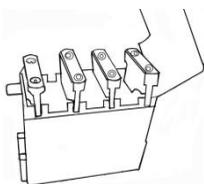


§ ヒューズの点検と交換 §

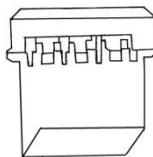
イグニッションスイッチを OFF にし、ヒューズに異常がないか確認してください。断線したヒューズは同じアンペア指定(この車両には 10A/10A/15A/20A の 4 種類が使われています)のヒューズに交換してください。また、これらのヒューズが使われている箇所断線があった場合、同線、鉄線などで直結することは、電装システムや回路に大きな負荷をかける恐れがあるため、厳しく禁じられています。

- シート下の荷室を取り外すと、バッテリーの近くにヒューズボックスがあるのがわかります。
- ヒューズボックスカバーを開け、ヒューズを取り外します。それぞれにダメージや破損がないか確認します。
- ヒューズを交換する場合、ワイヤーコネクターに対して確実に取り付けられているようにしてください。コネクターの緩みはオーバーヒートや車体へのダメージにつながります。
- 電気関連の部品、例えば灯火類などは、必ず定められた仕様に合わせた商品を使用してください。仕様に合わない商品を用いた場合、ヒューズの断線やバッテリーの異常損耗につながる場合があります。
- 車両を洗浄する際には、ヒューズボックスやその周辺に直接水をかけることが無いように留意しましょう。
- もし交換後の新品のヒューズがすぐにまた飛ぶようなことがあった場合、再度ヒューズを交換する前に、異常が発生した原因を確かめましょう。車両を SYM 正規販売店にお持ち込みになり、ヒューズが飛んでいる原因を確認しましょう。

【取り外し】



【取り付け】



§ ターンシグナルライトやホーンの点検 §

- イグニッションキーを ON の位置にします。
- スイッチを操作し、前後及び左右のウィンカーが正しく点灯していること、またホーンが正しく鳴ることを確認してください。
- 方向指示器カバーが汚れていたり、割れていたり緩んでいたりしないことを確認してください。
- ホーンボタンを押し、正しく機能することを確認してください。

⚠ 注意:

- 方向指示器には定められた仕様のバルブを使用してください。正しい方向指示器の動作に影響が出る恐れがあります。
- 方向指示器は、実際にレーンチェンジをしたり右左折する前に作動させ、自分の後方にいるドライバーに確実に警告を与えるように使用しましょう。
- 方向指示器は、仕様後すぐにボタンを押して点滅を終了させ、後方に続くドライバーにあなたが行く方向について混乱させないようにしましょう。

§ 前照灯及び尾灯の点検 §

- エンジンを始動し、ヘッドライトが自動的に点灯することを確認してください。
- ヘッドライトの光を壁にあてるなどして、その明るさや角度が正しいことを確認してください。
- ヘッドライトカバーが汚れていたり、ひびが入っていたり、緩んでいることが無いか確認してください。

§ ブレーキランプの確認 §

- イグニッションキースイッチを ON にし、ハンドブレーキレバーを握り、フロント、リアそれぞれでブレーキ灯が点灯することを確認して下さい。
- ブレーキライトカバーが汚れていたり、ひびが入っていたり、緩んでいることが無いか確認してください。

⚠ 注意:

- 定められた仕様のバルブ類だけを使用し、異なる仕様のバルブは使用しないでください。電装システムの異常やバルブの焼け、バッテリーの過放電につながる恐れがあります。
- 車体の電装部品を改造したり、ほかの電装部品を追加しないでください。過放電、短絡やそれによる火災などの深刻な問題が車両に生じる可能性があります。

§ 燃料の漏れの確認 §

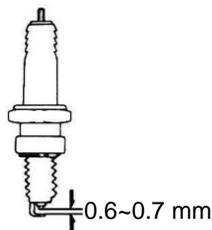
- 燃料タンク、燃料キャップ、燃料ホース及びキャブレターからの燃料の漏れがないか確認します。

§ ボディ各部の可動部の点検と潤滑 §

- ボディの可動部をよく確認し、潤滑が足りていることを点検します。メインスタンドの可動部やサイドスタンド、ブレーキレバーなどの可動部分を丁寧に確認してください。

§ スパークプラグの点検 §

- スパークプラグケーブルのキャップを取り外し、ツールキットにあるスパークプラグレンチを用いて、スパークプラグを取り外します。
- 電極部を点検し、汚れやカーボンの堆積がないかを確認します。
- 堆積したカーボンはスチールブラシなどで取り除きます。ガソリンでスパークプラグを洗浄し、乾いた布で拭き取ります。
- 電極を点検し、ギャップを 0.6~0.7 mm の間になるよう調整します。
- 取り付け時はまずは手で可能な限り締め込んだのち、レンチを用いてさらに 1/2~3/4 回転締め込んで取り付けます。



⚠ 注意:

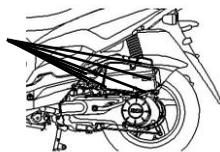
走行後はエンジンは非常に熱くなっています。やけどには十分注意しましょう。
※エンジンの仕様に応じたスパークプラグだけを使用すること。諸元表を確認すること。

§ エアクリーナーの点検 §

《取り外し手順》

- エアクリーナーカバーの取り付けスクリューを外します。
- エアクリーナーカバーを取り外し、フィルターエレメントを外します。
- エレメントを洗浄します(整備スケジュールを確認)。

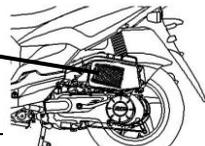
スクリュー



《取り付け手順》

- エアクリーナーを取り外しの逆の手順で取り付けます。

エレメント

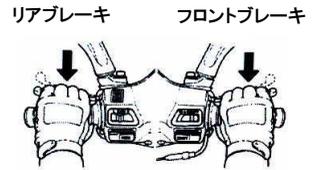
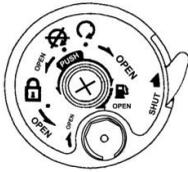


⚠ 注意:

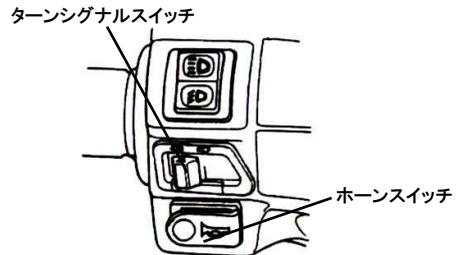
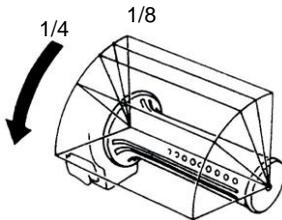
- 埃が詰まることは、出力の低下や燃費の悪化の最大の原因です。
- 埃の多い地域を走らせることが多い場合などは、エアクリーナーエレメントをより頻繁に交換することで、エンジンの点検インターバルを伸ばしていくことが可能になります。
- エアクリーナーが正しく装着されていない場合、埃などが直接エンジン(シリンダー)内に入り、エンジンに想定外の損耗を与え、深刻な出力の低下やエンジン寿命の短縮化を招くことがあります。
- 車体を洗浄する際に、エアフィルターを濡らさないように気をつけましょう。エンジンが始動困難になる恐れがあります。

11. 異常やトラブルに遭遇した時に

§ エンジンが始動できないときの診断 §



- (1). イグニッションキースイッチは ON の位置にありますか？ (2). 十分な量の燃料が搭載されていますか？ (3). スタートボタンを押す際に、フロントあるいはリアブレーキが握られていますか？



- (4). スターターボタンを押している間、スロットルを開けていませんか？ (5). イグニッションキーを ON にし、ホーンボタンを押しましょう。もしホーンが鳴らない場合、ヒューズが断線している可能性があります。

【上記を十分に確認し、それでもなおエンジンが始動できない場合は、SYM 正規契約販売店にご相談ください】

12. 燃料について

- この車両は無鉛ガソリン、90 オクタン以上をお使いいただけるよう設計されています。
- もしモーターサイクルを高地(気圧が低い地域)でお使いの場合、エンジンの能力を最大限発揮させるためには、空燃比を調整すべきでしょう。

13. トランスミッションオイル

- 推奨オイル: MOTUL Gear Compatition 75W140 API GL-4/GL-5

14. 運転するにあたって

1. 車両をメインスタンドを使って立て、シートの上に座ります。
車体を前方に向かって押し、スタンドを格納します。

 **注意:**

- スロットルグリップは発進するまではエンジン回転数を上げることになるため回さないこと。

2. 車両には左側からまたがり、シートに正しく着席。右足を確実に地面に置いて車体が転倒するのを避けるようにしましょう。

 **注意:**

- 発進するまではリアブレーキを保持しましょう

3. スロットルグリップを緩やかに回転させ、車両を動かし始めます。

 **注意:**

- クラッチレバーを急に離したり、スロットルグリップを急激にひねったりすると、車体は急激に前に進むことになり、危険です。
- 車体を走らせる前に、サイドスタンドを確実に格納してください。

【急ブレーキや、急なコーナリングは避けましょう】

- 急ブレーキや不必要に鋭いコーナリングは、スリップや転倒の原因になります。
- 急ブレーキや急なコーナリングは横滑りばかりか縦滑り、あるいは転倒といった危険が、特に雨の日などのグリップの弱い環境では発生しやすくなります。

【雨天時には普段よりも十分に注意を払って運転しましょう】

- 雨天時、あるいは滑りやすい路面でのブレーキによる制動距離は、乾いた路面に比べると大幅に伸びる傾向にあります。速度を落とし、早めに適切にブレーキを使用するようにしましょう。
- スロットルを早めに戻し、ブレーキは必要に応じてじんわりと利かせ、速度を調整したり下り坂などで速度を抑制させましょう。

16. 車両諸元

項目	モデル名 諸元	オービットⅢ50 XE05W1-EU
車体全長		1915mm
車体全幅		680mm
車体全高		1125mm
軸距(ホイールベース)		1290mm
総重量		107kg
エンジン型式		4サイクル単気筒
燃料		無鉛(オクタン価:90 又はそれ以上)
冷却方式		空冷
排気量		49.46
圧縮比		12.6±0.2:1
最高出力		2.6kw/7500 rpm
最大トルク		3.4N.m/6500 rpm
始動方法		セルフスターター
フロントショックアブソーバー		テレスコピックタイプ
リアショックアブソーバー		ユニットスイング式
クラッチ		遠心式クラッチ
トランスミッション		CVT
フロントタイヤ		110/70-12 47J
リアタイヤ		120/70-12 51J
ホイール		アルミニウム
タイヤ空気圧		フロント標準値: 2.00 kg/cm ² , リア標準値: 2.00kg/cm ²
フロントブレーキ		ディスク (φ226 mm)
リアブレーキ		ドラム(リーディングトレーディング) (φ110 mm)
前照灯(ハイ&ロー)		HS1 12V 35/35Wx1
ポジション灯		12V 5Wx1
テール/ストップ灯		12V 5W/21wx1
前部ターンシグナルライト		12V 10Wx2
後部ターンシグナルライト		12V 10Wx2
エンジンオイル容量		0.80 L (交換時 0.65 L)
トランスミッションオイル容量		110c.c (交換時 100c.c)
燃料タンク容量		5.7L
ヒューズ		2A×1&5AX1&10AX1&15AX1
スパークプラグ		CR6HSA
バッテリー		12V 6Ah
エアクリーナー		乾式

16. 車両諸元

項目	モデル名 諸元	オービットⅢ125I XE12W1-EU
車両全長		1915mm
車輪全幅		680mm
車両全高		1125mm
軸距(ホイールベース)		1290mm
総重量		115kg
エンジン型式		4サイクル単気筒
燃料		無鉛 (オクタン価:90 又はそれ以上)
冷却方式		空冷
排気量		124.6 c.c.
圧縮比		10.68±0.2:1
最高出力		7.5kw/8500 rpm
最大トルク		9.3N.m/6500 rpm
エンジン始動方式		セルフスターター
フロントショックアブソーバー		テレスコピックタイプ
リアショックアブソーバー		ユニットスイング式
クラッチ		遠心式クラッチ
トランスミッション		CVT
フロントタイヤ		110/70-12 47J
リアタイヤ		120/70-12 51J
ホイール		アルミニウム
タイヤ空気圧		フロント: 標準値 2.00 kg/cm ² , リア: 標準値 1名乗車時 2.00kg/cm ² 2名乗車時 2.25kg/cm ² for
フロントブレーキ		ディスクブレーキ (φ226 mm)・CBS
リアブレーキ		ドラムブレーキ (φ130 mm)・CBS
前照灯 (ハイ&ロー)		HS1 12V 35/35Wx1
ポジション灯		12V 5Wx1
テール/ストップ灯		12V 5W/21wx1
フロント方向指示		12V 10Wx2
リア方向指示		12V 10Wx2
エンジンオイル容量		0.95 L (交換時 0.70 L)
トランスミッションオイル容量		180c.c (交換時 170c.c)
燃料タンク容量		5.7L
ヒューズ		10A×1 & 15A×2 & 20A×1
スパークプラグ		CR7HSA
バッテリー		12V 6Ah(密閉式、メンテナンスフリータイプ)
エアクリナー		乾式



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。